

園児がつかまえた虫、ベスト 10 と地域性

自然・環境再生研究部 コミュニケーションデザイン研究グループ

八木 剛

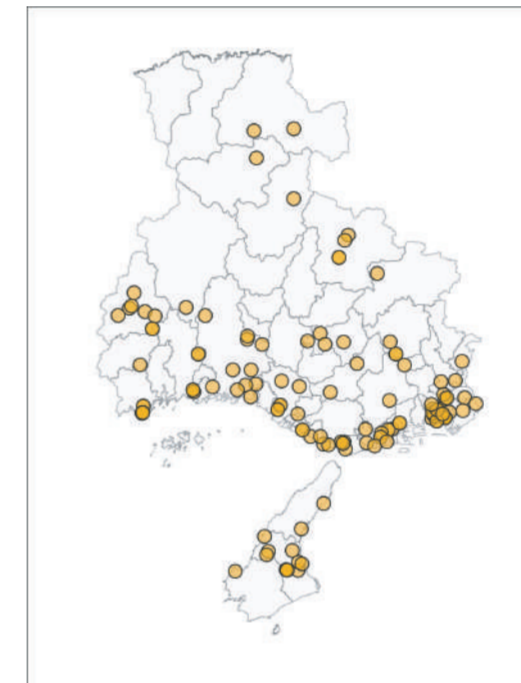


2017年10月から2022年11月にかけて、兵庫県内各地の幼稚園・保育所など110園5,773人の園児たちが、園庭や公園で123回虫とりをし、460種類、8,300匹あまりの虫(※)をつかまえました。これらは、園児が自分でみつけ、つかまえたいと思って手を動かし、実際に手にすることができた虫です。いわば「おともだち」ですね。

季節や地域によって「おともだち」の種類や数は異なります。ダンゴムシが圧倒的に多く、つぎがバッタのなかまででした。都市部では出会えない虫もありますが、プランターの一つでもあれば、そこに何かがあります。

幼児期には、身の回りにいる小さな生きものに触れ、自然観やふるさと意識の基礎を培ってほしいと思います。

※ 「虫」は小動物を指し、昆虫に限らない。幼虫など種が判明しないものも便宜的に1種類としてカウントしているため、種数とは異なる。



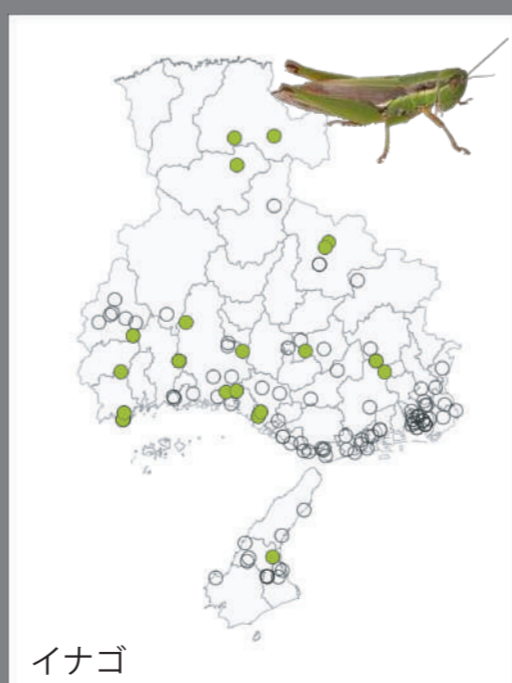
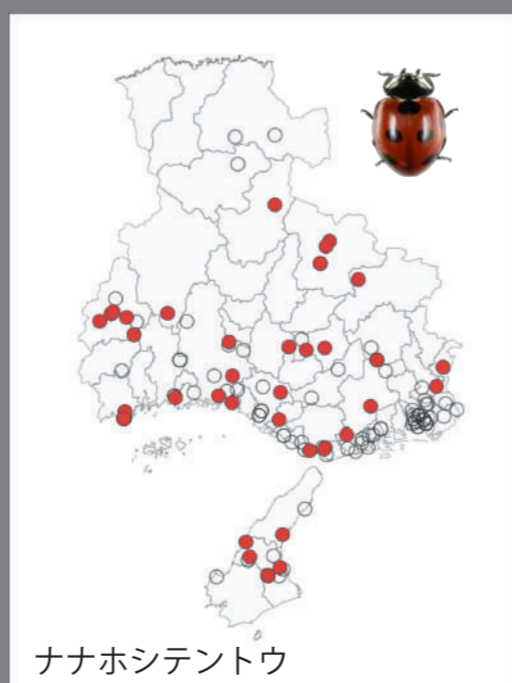
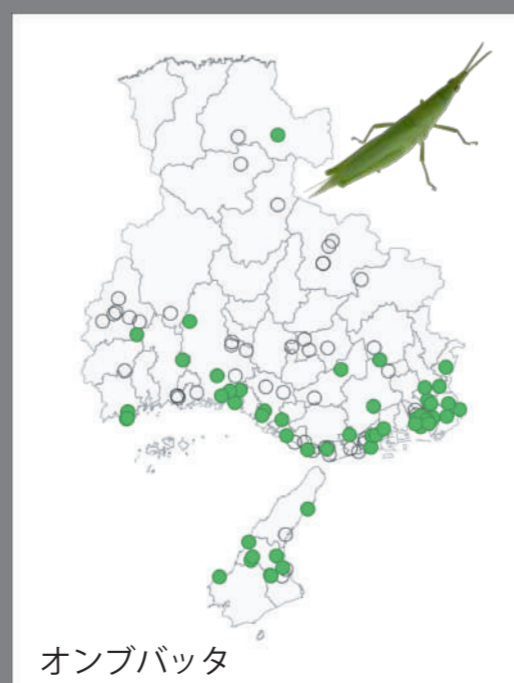
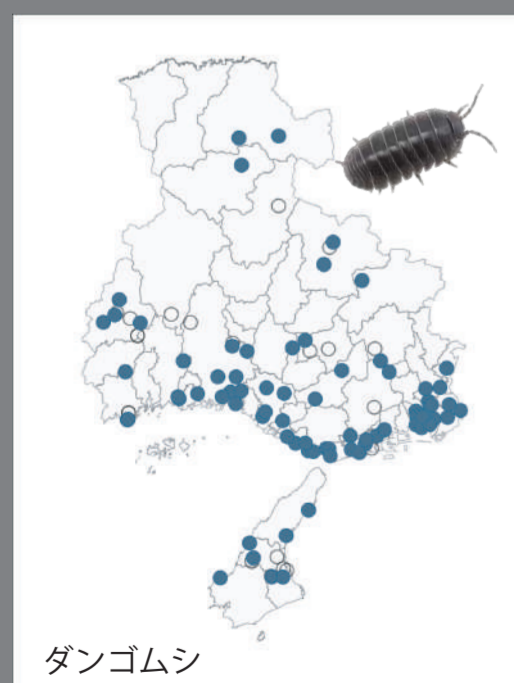
虫とりを実施した場所

110の園が113箇所を実施。同一園が同じ場所で季節や年を変えて複数回実施したことがある。7例の遠足を除き、園庭や近隣の公園等で実施。

- 1位 2,375  ダンゴムシ
- 2位 663  ショウリョウバッタ
- 3位 456  オンブバッタ
幼虫では種の区別ができない、オンブバッタ200・アカハネオンブバッタ144・幼虫112の合計値。
- 4位 265  イナゴ
幼虫では種の区別ができない、コバネイナゴ187・ハネナガイナゴ46・幼虫32の合計値。
- 5位 233  エンマコオロギ
- 6位 211  マダラバッタ
- 7位 196  ナナホシテントウ
- 8位 192  ミミズ
- 9位 171  ワラジムシ
- 10位 156  ニホンアマガエル

園児がつかまえた虫の個体数上位10種類

順位表示の下の数字が個体数。虫とりの実施時期には偏りがあり、5-7月と9-11月が中心で、2月、8月は実施がない。



園児がつかまえた虫の地域性

阪神間の都市部では、イナゴやニホンアマガエルに出会えませんでした。